



教育現場を支える多様な人材。

現在学校では、教職員以外にも多くの支援のスタッフが活躍しています。現場の状況を、県内の小学校でお聞きしました。

Aさん(教諭・クラス担任あり)、Bさん(低学年生活支援員)、Cさん(生活や学習の支援員)、Dさん(外国人児童生徒支援員)

—皆さんの仕事内容を教えてください。

Bさん 低学年生活支援員は、

1、2年生のクラスに入って、生活・学習などあらゆる面で担任の先生を補助します。学校生活に慣れないうちは、給食の配膳から休み時間の遊び方まで、さまざまな支援が必要で、体の不調を訴えられない子もいるので、注意して観察しています。

Cさん 私は今年度、特別支援学級で担任の先生のサポートをしています。個別に学習指導の補助をすることもありますが、その子が交流する通常学級で、横に寄り添ってサポートすることもあります。

昨年度は、通常学級で支援が必要な子どもたちの対応をしていました。

Dさん 外国人の子どもたち

の学習支援と、学校生活に適應するためのサポートをしています。学習面では日本語

の文法や会話などを教えたり、母国で習っていない算数の単元を教えたりしています。他にも在籍学級に入って、授業

についていけるよう支援しています。

Aさん なぜこんなに支援員が必要なのかと思われるでしょうが、昔と比べて学校に

対する考えも子どもたちの様子も大きく変わり、現場では細やかな対応が求められているのです。これに応えていくために、支援スタッフは重要な戦力になっていきます。

支援スタッフが教職員をサポート。

—どんな場面で支援が必要

なのでしょう？

Cさん 子どもたちが学習に集中できなかったり、担任の指示が伝わらなかったりする

場合があります。そこで私たちが対応します。こうした時に担任の先生が動いてしまうと、授業が中断して他の子どもたちが待たされて、学習進

度に影響することもあります。

Bさん 低学年の子どもたちは、一人で判断できず支援が必要な場面が多いです。例えば体調が悪い子がいた場合、担任が他の子どもたちの指導

を行いながら、その子の介抱をするのは困難です。こうした時に支援員が保健室へ連れていったり、介抱したりします。また、作文や計算問題など、個人差が大きい学習では、個別に学習のサポートをすることで、授業にスムーズに追



いつけることも多いです。

Dさん 日本語や日本の学校生活に慣れていない外国の子どもたちには、早く理解してもらうために簡単な日本語や母語を使って説明しています。

Aさん 担任としては、支援員の方がいてくださるので、全体への目配りがよりできるという感覚があります。本当

環境の充実が教育の充実につながる。

—スタッフは他にもおられるのですか？

Aさん 平成28年度から「学校運営支援員」が配置されました。仕事をお願いできる分、子どもたちと向き合う時間が増え、とてもありがたいと思っています。

—こうした人員は確保されているのですか？

Aさん 支援員の方は基本的に年度契約なので、子どもたちのために継続して来ていたけると助かります。また、学校の規模によっては、支援員が配置されない学校もあります。支援員の方は貴重な戦力です。今の学校は、様々な方々の支えで成り立っています。多くの方々が支援員として学校に来ていただけると大変ありがたいです。

◇用語解説表◇

低学年生活支援員

1、2年生で31人以上の学級に配置される

学校運営支援員

各種おたよりの印刷やホームページ更新など事務的な処理等を手伝える



子どもたちの未来を、もっとよくするために。福井県教職員組合は活動しています。

福井県教職員組合 〒910-8544 福井市大手2-22-28 福井県教育センター内 電話 0776-23-1887 ファクス 0776-23-2919 <http://www.ftu.or.jp/>